

サクラの景観保全

利用・安全

●サクラの計画的・段階的な更新

短期～長期

現況・課題

- ・園内に約90本のサクラがあり、大部分が都立公園期頃に植栽されたソメイヨシノと推定され、同種の老齢期と言われる60～80年を迎える。
- ・令和5年度に実施した樹木医診断では、健全な個体(A判定)は約11%で、約9割が健全とは言えない。また、これまでに枯死・伐採したサクラの植替も進んでおらず、園内に伐採後の根株が放置されている。

「さくらの広場」 土壌の水はけは悪い。

「妙正寺川沿い(さくらの広場側)」
枯損・倒木により半数近くを失っており、サクラの連なりを保てていない。

「妙正寺川沿い(菖蒲池側)」
多くが樹形を崩しており、被害が目立つ。

「サクラ並木(運動施設間)」
比較的枯損木は少ない。

「児童遊園」
樹形が崩れているほか、伐採後の根株が放置される。

「つつじ園」
比較的枯損木は少ない。

「七十七場(時空岡)」
サクラはほとんど残っていない。

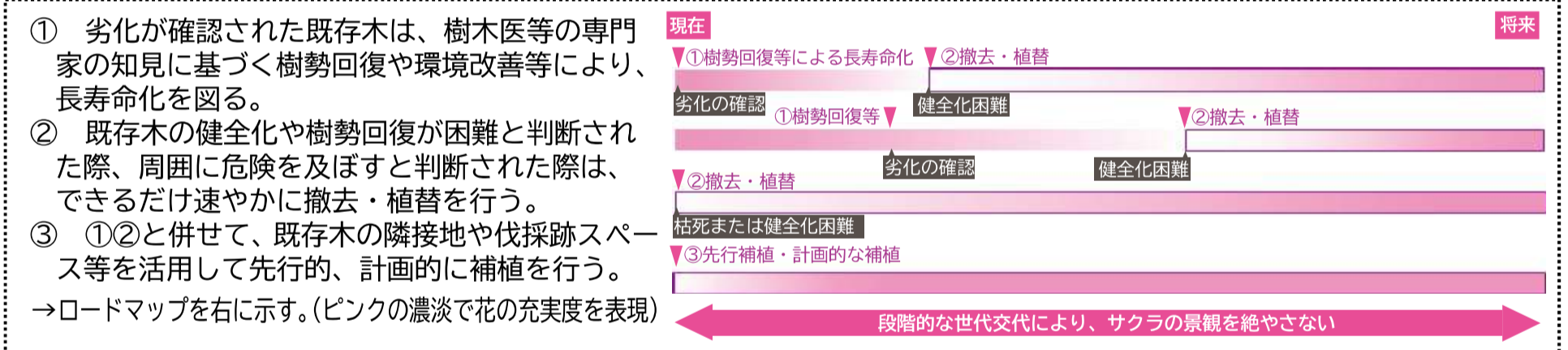
「菖蒲池・周縁」
周辺樹木に被圧され、健全度を保てていない。

樹木診断凡例

● A	健全か健全に近い
● B1	注意すべき被害が見られる
● B2	著しい被害が見られる
● C	不健全
■	枯死・伐採あと

計画的・段階的更新の考え方

- ・サクラの景観維持と将来への継承を目指し、老齢化した既存木を最大限保全しつつ、公園全体や各エリアにおいてサクラの景観が途絶えないよう、以下①～③の整備と措置を行い、段階的に世代交代を進めていく。



「各エリアにおける方向性」

- さくらの広場
不健全と判定されたものは早期に撤去・植替する。現状で空いている箇所には、先行して補植を行う。土壌改良を行い生育環境の改善を図る。
- 七十七場(時空岡)
文化財や樹木との近接により同位置への植替が困難な箇所は、できるだけ近接地にて補植を行うなど慎重に検討する。
- つつじ園
ツツジなど周囲に植栽が多く、同位置への植替は困難のため、エリア内の他スペースへの補植等を検討する。
- サクラ並木(運動施設間)
伐採跡へは早期に補植を行う。土壌改良を行い生育環境の改善を図る。
- 妙正寺川沿い
伐採跡へ早期の補植を行う。形の良いヒコバエは活用する。補植・更新の際は過密な樹間を見直し、サクラ同士の被圧を軽減する。
- 児童遊園
伐採跡へ早期に補植するとともに、空いているスペースに優先的に補植を行う。
- 菖蒲池周辺
伐採跡については早期に補植を行う。従前の位置は周囲樹木の被圧を受けやすいため、補植は近接地等を検討する。

利用動線の整備

利用・安全

●園路の平滑化及びバリアフリー化

- ・劣化等により裸地化や段差が生じている園路の舗装について、全面的に順次、改修を進めるとともに、車椅子でも通しやすいバリアフリールートを確認するよう努める。
- ※斜面地など、基準への適合が難しい箇所については、ソフト面と併せた対応を検討する。

●手摺(てすり)の全面改修

- ・斜面地の階段等に設置されている手摺が劣化し景観を損ねているほか、使いづらいものもある。利便性や景観の統一を図るため、全面的に恒久的な手摺を設置するものとし、順次改修を進める。



短期・中期